

らざる事と艙内の空氣艙外に發散するまで何人とも雖も艙内に入るを禁ずる事なり若し炭酸の器物既に破裂せし時の多量の炭酸の能く石炭より發生せる沼氣の爆發力と減殺すべしと雖も炭酸氣の滯積せる者の亦人命を奪ふの恐れおれり安りに艙内に入る可らず唯安全燈を艙内に入れ毫も其光力を失ひざるを認め始めて艙内に入るを許すべし一旦石炭の發火するに當つて唧筒以て之に注水するが如き殆んど無効の者と云ふべし何となれり發火の毎に石炭の底部に創始するにより斯る水の底部に到達する以前既に蒸散するを以てなり最良の注水鎮火法の直徑三吋大の管四個を凡そ六尺を隔てて石炭室底に裝置し其上面に凡そ一尺毎に二分大の穴を穿ちて之より噴水せしむるにあり此四管に各二個づつ隣室兩舷底を穿つて海水と交通せる六吋大の二管と連結せしめ海水の出入り螺線瓣を以て之を制せしむべし故に出火して電鈴の出火の局處を指示する時の右螺線瓣の一を回轉するにより海水忽ち噴出して石炭の下部を浸し漸く蒸發して石炭間の空氣を排却し以て鎮火するに至るべし云々

○不思議なる防塵物

當五月に開きたるロヤルンサエチーの夜會に於てキルリソグ、ウォ

ース氏の炭素と石鹼石の化合物を公衆に示して曰ふ此物即ちカーボイドの諸機械の防塵上に使用して會て注油の必要なしと而して此と同時にヘッチ氏のグラム發電機及び其他小形の機械の之を使用せる者を示せり (右二件富山久米吉)

○世界ノ鐵道

Railroad gazette may 30th 1890

五大洲

千八百八十四年十二月卅一日調

千八百八十八年十二月卅一日調

歐羅巴

一一八六〇〇哩

一三三、九〇〇哩

亞米利加

一四九六〇〇哩

一九〇、〇〇〇哩

亞細亞

一三、二〇〇哩

一七、八〇〇哩

亞弗利加

四、〇〇〇哩

五、二〇〇哩

澳斯多利亞

七六〇〇哩

一〇、五〇〇哩

合計

二九三、〇〇〇哩

三五七、四〇〇哩

○各國鐵道百哩ニ付滾鐘車ノ數輛 全上

英國

八十輛

比耳義

八十輛

日耳曼

五十三輛

佛國

四十七輛

魯國

四十輛

澳國

三十二輛

伊多利

三十輛

印度

二十四輛

北米合衆國

十九輛

○世界中鐵道ノ資本金高 全上

二九〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗

內譯

一五〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗ハ 歐洲ニテ平均壹哩ノ經費一一五〇〇〇弗ノ割合ナリ

リ

一四〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗ハ 他ノ各國ニテ壹哩六万弗ノ割合ナリ

○米國新設鐵道ノ延長

Rail road Gazette July 4th 1890

本年一月ヨリ六月迄半期下ニ新設シタル鐵道線路ノ延長ハ

北米合衆國

千八百五十八哩六分